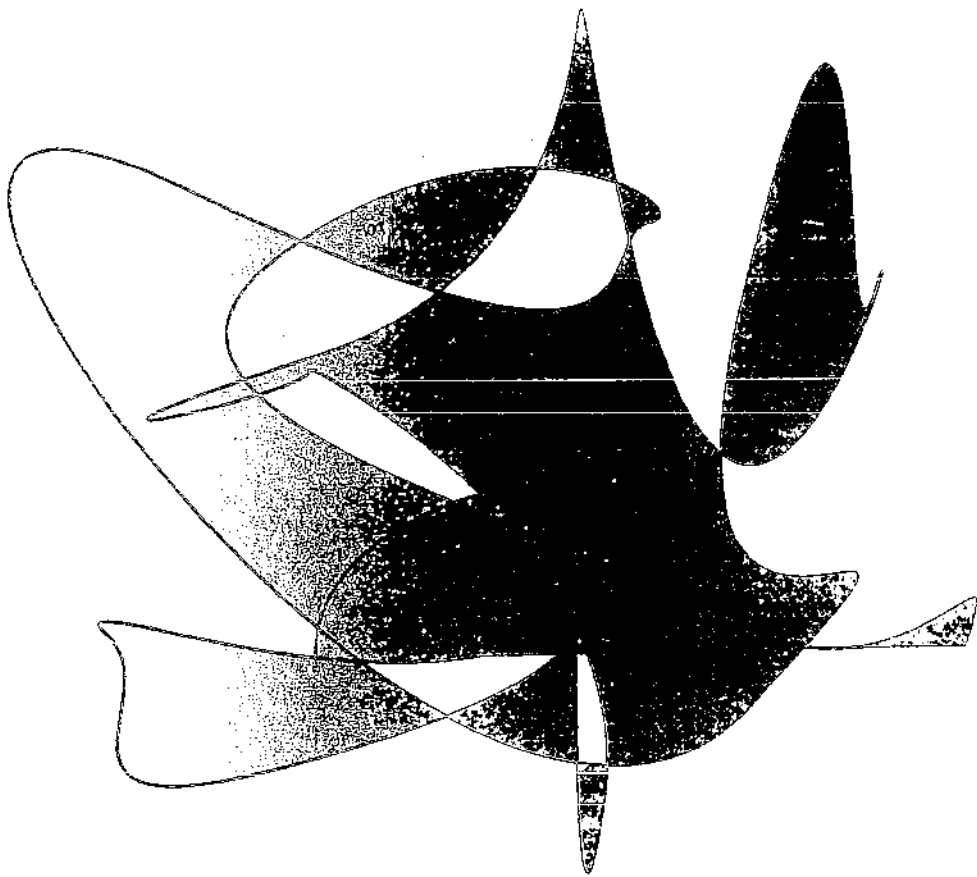


未来に向かって

中団連10年の歩み



神奈川県中学校団基連盟
創立十周年 記念誌

目 次

1. 10周年を迎えて	中囲連会長 齋木 孝道	1
2. 特別寄稿 中囲連10周年に寄せて9ープロへの道一	日本棋院九段 高木 祥一	2
3. 中囲連結成の黎明期について	元高囲連理事長 亀井 栄吉	5
4. 10周年に寄せて	日本棋院神奈川県支部連合事務局長 神奈川新聞社記者 山本 正	6
5. 囲碁と私	初代中囲連会長 中村 正明	7
6. 人生を振り返って	前中囲連理事長 水野 晴行	8
7. 世代を超えて楽しむ	前中囲連会長 三橋 敬夫	9
8. 10年のあゆみ		10
9. 事務局長を3年間務めての感想と思い出	前中囲連事務局長 大澤 英男	13
10. 神奈川県中学校囲碁連盟10周年おめでとうございます	元中囲連理事 (川崎市立橋高等学校定時制) 堀田 重光	14
11. 囲碁ブーム考	中囲連理事長 飯野 詮芳	15
12. 囲碁を始めた頃	横浜市立川和中学校卒 柳下 雅則	17
モノクロワールド	聖光学院3年 東 成樹	17
13. 思い出の写真・棋譜・新聞等掲載記事コピー		18
< 資料編 >		
14. 神奈川県中学校囲碁連盟規約		24
15. 平成17年度年間活動計画		25
16. 神奈川県下の中学校・囲碁活動校一覧<平成16・17年度>		26
17. 大会記録 ……県中学校囲碁選手権大会 (新人戦含む)		27
18. 大会マニュアル		28
19. 役員一覧・歴代会長・理事長・事務局長		32
20. 編集後記		33



10周年を迎えて

会 長 齋木 孝道
(横浜市立上の宮中学校長)

中学校囲碁連盟が平成7年に発足し、今年で10周年を迎えることができました。これも礎を築いていただいた前理事長の水野晴行先生や元高校囲碁連盟理事長の亀井栄吉先生のご尽力と本連盟を発展させていただいた先達たちの努力の賜物であると感謝しております。また、囲碁を子どもたちに普及させていこうとする教職員、普及会、日本棋院、碁会所、神奈川新聞社等の人たちの暖かいご支援・ご協力のお陰であると思っております。

現在、中学生をとりまく社会は以前に比較して急激に変容し子どもたちの成長に大きな影響を与えております。少子化、都市化、人工化された環境の中で、子どもたちの遊びも変化し、戸外での集団遊びから室内でのテレビゲーム等の遊びが主流になっています。ゲームによるバーチャル体験が増え、実体験の減少が現実との乖離を起し、このことが子どもたちの発達阻害要因になり様々な問題行動を引き起こしております。そのような状況の中でこそ、子どもたちに囲碁を通して人間関係や様々なことを教えることが極めて重要になっています。隣国の韓国では、子どもに集中力・思考力や礼儀・作法を教える一つとして碁が活用されており、多くの子どもたちが碁会所に通っています。中学生という時代は柔軟な発想ができ多感な年頃でもあるので、碁のゲームがもつ様々な人生訓を教えることも教育上効果があります。

今、中学校での囲碁普及活動の状況は、教育課程が変わりクラブ活動が部活動に代替されるようになり囲碁を学ぶ機会も残念ながら減少してしまいました。教育課程にクラブ活動が位置づけられていたときには、囲碁や将棋のクラブは沢山あり学んでいた生徒も多かったです。しかし、囲碁を愛する教職員によって、部活動に囲碁を取り入れているところも最近は少し増えてきております。中学校の囲碁大会を行なうと県内各地の公立中や私立中からも参加を得て盛況に大会が行なわれることは嬉しいかぎりです。その裏には、顧問の先生方の多大な努力があるものと思っております。

最後に、囲碁を学ぶには大人よりも子どもの時から始めた方が上達が早いのも事実です。中囲連も小学校囲碁連盟と連携をとりながら活動を続けていくことが大切であると思っております。今後とも、子どもたちへの囲碁普及活動に対して暖かい志を持続させていただき、本連盟の活動にご理解・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



中囲連10周年に寄せて

—プロへの道—

日本棋院専門棋士

高木 祥一 九段

私が中学校囲碁連盟の先生方とお付き合いが出来たのは、5年ほど前、ボンド（株）主催の小中学校囲碁全国大会の神奈川県予選の開催を、無理にお願いしたことから始まった。当時の三橋会長や水野理事長、大林先生、石川先生と神奈川アマ碁界の府川さんや福田さん達と数回の打ち合わせをし、全面的に協力していただき無事に大会を終わることが出来た。

この時既に、中学校囲碁連盟は発足して5年経っており、60人位の子供達が大会に参加しているとの事。本来、日本棋院がやらなくてはいけないことを、熱心に推進して下さり、有り難く思いました。今回、「発足10周年に当たって何か書いて下さい。」との依頼があった。

今回は、私が碁を始めた頃の事を書いてみたい。

昭和29年の11月、11歳の私は、父に連れられて鶴屋町にあった碁会所に行った。

席主は渡辺泰宏先生といって、当時の段でアマ三、四段位、歳は50代半ば位で細身の先生だった。先生は、子供の養成に力を入れていて、後藤昌治（プロ二段後に廃業）、小島高穂（現九段）、岡信光（現七段）、現在アマチュアで活躍している佐々木慶一君、他にも4、5人通っていて賑やかなものだった。延べにすると、20人位は居たと思う。

しかし、今思えば、横浜で碁を打つ子どもの大半だったのではないかと思う。今日、小中学校の大会に、300人近い参加者があることを思うと、隔世の観がある。

その日から、学校が終わると家にカバンを置いて直に碁会所に向かう生活が始まった。

先生の教え方は少々変わっていて、先生が、加藤信八段の定石の本を見ながら、四隅に同じ形を並べさせる。初めは、1日に3つ位の定石を覚えたろうか。次の日は、前日までの定石を一通り並べて、又新しい定石を3つ4つ程教わった。その他には、シチョウやゲタ等、簡単な石の取り方などを教わった。このやり方が、好かったかどうかはよく分からないが、基本の石の形が身に付くことは確かだろう。特にルールを教わった記憶はないが、待つ間や終わった後に他の人の碁を見ていて、自然に覚えたものと思う。

藤沢から通っていた佐々木君は、私より1歳年下だが、1、2年前から通っていて、当時の級で4、5級（今ならもうすぐ初段）だったろうか。私は、初めは25目、少し強くなっても9目置いて、随分負けてベソをかいたものだ。一月程して、リーグ戦に入れてもらうことになった。付けてもらった級は22級。それでもなかなか勝てず、最初の一月は少し負け越したと

思う。

しかし、面白かったとみえて、毎日休まずに通った。私は教室の人などによく言っているが、週1回打つのと週2回では、量は2倍だが効果は4倍の違いが有る。毎日というのは大きな力となったのだろう。

次の月になると、俄然勝ち出した。勝率8割以上で優勝した。賞金の様なものがあるが、いくらもらったかは覚えていないが、熨斗袋に入ったお金をもらって嬉しかったことを思い出す。以後、毎月好成績で、ほぼ毎月の様に入賞して一月に2、3級一遍に上がったことも何度かあった。何しろ毎日学校が終わると碁会所に行き、パンなど軽い食事の時以外は、碁を打って8時過ぎに帰宅。遅い夕食の後、少し休んで寝るといった生活で、学校の勉強はしたことがなかった。

当然宿題もやらず、先生にはずいぶん叱られたが、この習慣は中学卒業まで変わらなかった。しかし、不思議なことに、学校の成績は決して下がらず少しずつ上がっていった。後で考えると、これは碁に因って集中力が上がったためとしか考えられない。夏休みには、朝10時頃先生の所に行って、プロの碁を並べたり仲間と打ったりして過ごし、昼過ぎから、いろんな所へ遊びに行った。三ツ沢辺りまで遠征して、トンボを捕ったり、三角ベースの野球をしたりした。その後、夕方位まで碁の勉強という毎日だった。

今思うと、詰碁の勉強が少し足りなかったように思う。詰碁をもう少しやっていたら、もっと強くなっていたかもしれない。9月になって、佐々木君と一緒に院生になることになった。碁会所では1級（今なら四段位か）になっていた。

渡辺先生に連れられて、高輪の日本棋院に行った。何局かの試験対局の後、私も佐々木君も幼稚部9級と認定された。当時の院生制度は、1級から6級までの養成部に分かれていて、師範は養成部が杉内雅男七段（当時）と梶原武雄七段（当時）、幼稚部は竹中幸太郎三段（当時）だった。

土曜日は午後1時から、日曜日は午前9時半から始まって、日に2、3局打って先生の講評を受けるのが一日のパターンだった。幼稚部の仲間は福井進（現九段）、小杉勝（現八段）、青山絢子（現・谷宮絢子二段）、プロにはならなかったが岩本薫本因坊のお嬢さんの洋子さんなど12、3人だった。余談だが、洋子さんの美しさは子どもながらびっくりした記憶がある。

この時には碁会所の先輩3人が院生になっており、後藤昌治君は2級、小島高穂君は3級、岡信光君は4級位だったと思う。先輩達に週1回位、交互に打ってもらったのもこの頃だった。手合割は、四子位だったが、初めはなかなか勝てなかった。

この年の院生研究会の最後に、慣例の碁石磨きがあった。終わった後、「棋道」の巻末の詰碁

を見ながらワイワイガヤガヤやっていると、丼が出てきた。これが私が初めて食べたカツ丼で、〈世の中にこんなに旨いものがあるのか〉と思った。

中学生になる頃には、碁会所にはいい相手が少なかったが、碁会所の方がピリッとするので、出掛けてプロの碁を並べて勉強することが多かった。数年前から、先輩達4、5人は大平修三五段（当時）に指導碁を受けていて、私もだいぶ力を付けて来たので参加したかったが、人数が多くて参加は無理と言われた。

父の友人で、中川新之六段（当時）に毎週稽古を受けている頃末格一氏の好意で、毎週打ってもらうこととなった。最初の対局は五子で打ってもらい、それを機に弟子にいただいた。この指導は入段まで続き、2年程で二子で打てる様になった。

中学2年からは、夏休みに先生のお供で毎年富山に指導碁に行った。宴会の時に飲めない先生の代わりに、ビールを飲んだりしたこともあった。頃末氏には、入段後は数人で指導碁の会を作ってもらい、月謝を頂く様になった。頃末さんは、私が三段の時に惜しくも亡くなられた。

大平先生の指導碁会も空きが出来て、メンバーに加えてもらった。この会は一人の持ち時間が50分程で、時間が来ると打ち掛けて次週打ち継ぐシステムだった。大平先生には、碁を覚えて半年位に九目で一局、四子、三子で30局近く打って頂いたが、先生が忙しくなって1年程で中止となったが、最後は三子で好勝負が出来る様になった。また先生には二段になった時に、頃末氏の好意で先で三番打って頂いたこともある。この時は1勝2敗だった。

中学3年になって、少し欲が出て来てプロになりたいと思ったが、まだまだ心技共に甘く、ただの願望に過ぎなかった。中学3年の夏の入段試験には、最終予選まで進んだが惨敗した。夏の子選はトップの一人が入段出来るが、小島高穂君が入段を決めた。私は冬の子選も失敗して、中川先生に〈君は白番が下手だから〉と師が黒を持ってくれたのもこの頃である。

今書いていても、いろいろな人の好意に支えられてプロに成ったんだなとつくづく思う。

少し受験勉強のまねごとをして、春に平沼高校に入学した。ほとんどの仲間は、中学卒業のままプロを目指した。学校に行っても、仲間は碁を打っていると思うと、勉強も手につかず、時々学校を休んで研究会に行ったりしていたが、どうしても落ち着かず、父に学校を辞めたいと言った。父は猛反対で、いろいろあったが、結局許してもらった。これで退路を断って、プロへの気持ちは固まったのである。

碁を覚えてから、プロへの覚悟が決まるまでの経過をいろいろ綴ってきたが、この辺で終わりにしたい。ちなみに、入段が決まるまでには、2年の時間が必要だったのである。

【高木先生の主な実績より：首相杯争奪戦優勝2回、新鋭トーナメント戦優勝、本因坊戦リーグ在籍4回、名人戦リーグ在籍3回、棋道賞（勝率第1位賞、最多勝利賞、技能賞等）受賞等】



中囲連結成の黎明期について

元高囲連理事長
顧問 亀井栄吉

中囲連発足 10 周年、誠におめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

時の流れは速いものです。中囲連結成に最初にかかわった者の一人として、その黎明期のことを述べてみたいと思います。平成 5 年 (1993 年) 県高囲連の理事長をおおせつかつて、(高囲連は昭和 52 年発足) 平成 5 年は高囲連 17 回大会を迎えていました。生徒の参加数もここ数年激減 (多いときは 200 人、少ないときは 50 人前後) して、役員一同何とかできないか、囲碁クラブを増やすには、活発化とかいろいろ心配して役員の学校からできるだけ多く参加するように腐心の時期でした。私は思いつきで、神奈川県下の中学校に囲碁の部活ができ、そして囲碁の組織ができれば、高校も増えるかもと、皆さんに提案しました。皆さんの賛同を得て、中学普及担当の役員をかって出ました。しかし、どうしたら良いか、分かりませんでした。そのうち考えているとき、中学にも碁を打つ先生が必ず居られると信じるようになってきました。日本棋院事業部の伊藤康成さんにも相談し、会員名簿から先生方を探したりしました。神奈川新聞の囲碁担当の滝川 (故)、林さん等にも相談したり、新聞等にも気をつけたりしていました。そして、最初何かのきっかけで、やっと大林先生を一人つかんだのです。その後、二人目、あるきっかけで豊田中学の水野先生(初代理事長)にそれこそ運命的な出会いをしたのです。(今でもそう信じております) 平成 6 年 (1994 年) 9 月 17 日～18 日、全国共済組合の招待指導対局 (孔祥明さん) での箱根の「ひめしやら」でした。対局後、水野先生が、中学に囲碁の部活を持っていて、生徒を 20 人ぐらい指導していると言われたのです。私はうれしくて興奮しました。その場ですぐ、初めて中学囲碁連盟結成の話をしたのです。最初は水野先生びっくりのようでした。それでも夜遅くまで高囲連の活動内容など話しているうち、気持ちが動いてくださったので嬉しくなりました。これを機会に水野先生はその後相当力を入れて下さったのです。

そうして、3 人目、平成 7 年 (1995 年) 12 月 3 日「日の出手談」(現閉店) での、日本棋院主催の「教職員のための囲碁指導者講習会」で石川先生に出会ったのです。3 人そろえば何とかで、平成 8 年 (1996 年) 7 月 15 日私の勤務校の磯子工業高校に 3 人に集まってもらい夜遅くまで、神奈川県中学校囲碁連盟について、また第一回大会について打ち合わせを行ったのです。その間、高囲連役員、日本棋院、神奈川新聞社等の囲碁関係者に応援をしてもらっていました。そして、ついに平成 8 年 7 月 29 日、中学校として全国初、第一回神奈川県中学校囲碁選手権大会が豊田中学校で開催されたのです。現在の心境は感無量です。教育活動の一環として、今後ますます中囲連の発展を祈念しております。



10周年に寄せて

日本棋院神奈川県支部連合会

事務局長 山本 正

神奈川県中学校囲碁連盟が創立十周年を迎えられ誠におめでとうございます。
心からお祝い申し上げます。

いま日本棋院では「学校囲碁」の普及活動にことのほか熱心に取り組んでいます。

第2回小・中学校団体戦が学校単位の対抗戦はまだ時期尚早の音が聞かれる中、小学校443校、中学校375校の参加を得て盛大に行われたことは既報の通りであります。

去る8月、箱根で日本棋院普及事業担当常任理事の梅木英八段と会ったとき、「これから山形など東北地方に小・中学校囲碁連盟設立について出掛ける。」と話していました。

日本棋院は、三年前の「ヒカルの碁」旋風にやっと目を覚まし、重い腰を上げました。

神奈川県中学校囲碁連盟（以下県中囲連と言う）は全国に先駆けて10年も前から子どもたちの普及活動に取り組んでいると聞きます。関係者皆さんの先見性と情熱には頭が下がるばかりです。県中囲連の活躍は「囲碁王国神奈川」の声価をまた一つ高められ、私たちもいささか鼻が高い思いであります。

今春行われた日本棋院神奈川県支部連合会の定期総会に梅木常務理事が出席しました。これは関係者の間でちょっとした話題でもありました。何しろ県連などの総会出席は、この時が初めてのことであり、異例の出来事だったからです。出席したのは、県中囲連に敬意を表するためと側聞しております。（ちなみに飯野詮芳理事長に出席していただいた）日本棋院の県中囲連に対する評価が、どのようなものであるかがこの一事をもつてもうかがえます。

神奈川新聞の取材で県大会にはよくお邪魔します。ある時、こんな事がありました。終局し対局者の顔写真を撮る段になって、一人の子が掲載を嫌がった。役員の先生に訳を聞いてみると、普段校内で冷やかされていて、新聞に載るとまた友人に冷やかされることを心配しているという。別室で引率の教師が説得をしているのを目撃した。（幸いその子は了解し、何事も起こらなかった）日ごろ先生方のご苦勞の一端を垣間見る思いでした。

県内各地には地元の囲碁愛好者で結成された同好会、囲碁連盟があり、それぞれ独自に子ども教室を開きボランティアで普及活動を行っている。中囲連とのネットのないこうした団体の「草の根運動」に目を向け、交流の輪を広げられないものかと、取材のたびに痛切に感じていますが、いかがなものでしょうか。

中囲連のますますのご発展をお祈りします。

（関東甲信越静岡囲碁連盟事務局長、神奈川新聞社文化部囲碁担当）



囲碁と私

神奈川県中学校囲碁連盟

初代会長 中村 正明

私は18歳の頃、近所の小学生から囲碁を教わった。きわめて初心者には分かりにくいと思った。生き、死に、かけ目、ゲタ等の手筋、今でも難しい。

コンピュータの導入でこれだけ発達した世の中で、星打ち、小目、目はずし等の布石戦法でどの戦法が有利なのか、勝率が高いのか、未だにはっきりとした結論が出ていない。

所詮、どう打っても力次第なのかもしれない。

なんとか自分なりの必勝法（得意な布石）を作り出したいと常々思っている。

囲碁は難しい。教えの中で矛盾したものがあるからだ。囲碁は言うまでもなく自分の地を相手より広く囲み合うゲームである。

ところが、単に地を囲うだけの手はいけないという。つまり、戦いの結果として自然に地が出来る。一手一手が相手に響くように打たねばならない。この感覚は何回も実践を積まないと、なかなかつかめない。

その1、「相手の石を切断して攻める」確かにその通りである。

一方ある場面では「相手の石をつながらせて打て」と言う。つまり、ダメを走らせるのである。この二つの矛盾した教えを理解するのはかなり難しい。

初心者の頃、自分の二つの集団の石がつながって生きたという事で良かったと思った。今考えてみたらつなげた石自体は1目も地を得ていないのだ。情けないと思うようになった。この事が分かるのは、相当難しいことだろう。

その2、「相手の石の外側を打ち封鎖する」この方針は気持ちよく、外側に厚い壁が出来、有効な戦法だと思う。しかし封鎖しても良くない場面もしばしばあるのだ。碁の難しさであろう。

つまり封鎖しても中の石が生きて一向に相手に響かない場面は封鎖した手が地になっていないので、まずい場合があるのだ。

追記

＊ 囲碁は面白いことにバスケットボールに似ているところがある。ディフェンス（守り）を広く構えれば、カットインされシュートされる。碁で言えば、中で生きられたり荒らされたりする。狭いディフェンスであれば、中に入られないが外側からシュートされる。碁では小さく生かされ外側に広大な勢力を与える。

これらの事で要は、バランス感覚が大事ではないか。



人生を振り返って

神奈川県中学校園碁連盟
前理事長 水野 晴行

10年刻みでその時何をしてきたか、人生を振り返ってみた。

1965年 ブラジル丸に乗ってアメリカへ渡る。帰りの旅費を持っていなかったの
でいつ帰れるかわからない。大学には休学届けを出す。ロスについて10日目で仕事が見つ
かり、フレズノ郊外のレーバーキャンプ（労働下宿）に入る。「ちょっと前まで日本から
来た若者が働いていたが、移民官にみつかった。強制送還だけは免れたが怖くなったので
ヨーロッパに渡った。」着いてまもなくこんな話を聞いて不安になる。自分も働く事の出
来ないトラベルビザである。でも覚悟の上で来たのだからやるより仕方が無い。尚この若
者は、後の植村直己である事が数年後で分かった。当時は無名である。翌年の帰国まで、
苦勞の連続ではあったが、「困難よりも好奇心の方が勝っていれば、何とかなるものだ。」
という教訓をこの旅から学んだ。

1975年 社会科の教師として1度戦争は見ておきたいと思っていたが、近くのレバ
ノンで内戦が勃発した。当時テヘランの日本人学校に勤務していたので首都ベイルートへ
出かける。最近分かった事だが、この年かなりの人質が捕まったそうだ。なんとかなった
とはいえ、今度は、平和時に行きたい。

1985年 自分の生誕の地、上海を訪れる。引き上げた時2歳だったので、記憶を頼
りに住んでいたあたりにたどり着く事は不可能だが、とにかく行ってみると、不思議と何
とかなってしまうものである。道を歩いていると、1人の老人がきれいな日本語で話し
かけてきた。ここが日本人の小学校、ここが日本人の映画館、ここが日本人の市場。次々と
案内してくださった。建物は当時とは違っているとの事。生まれた当時、ここの空気を吸
っていたのかと思うと、景色が妙に懐かしく感じる。

1995年 全国初の「中碁連」を立ち上げるべく、日々孤軍奮闘とまでは行かないが、
試行錯誤であれこれとやっているうちに、ようやくこの年、1名の仲間が出来た。実に連
盟創りを始めて1年近くが経っている。1人と2人では大違い。連盟発足まではさらに1
年かかったが、当時の様子は、「中学校園碁連盟5年の歩み」（碁ワールド2001年4、
5月号）に詳しく連載したのでここでは省く。設立までの2年間、常に「高碁連」（当時
理事長だった亀井先生）の応援があったので発足にまでたどり着くことが出来た。紙面を
借りて感謝の意を表す次第です。「困難よりも好奇心の方が勝っていれば何とかなるもの
だ。」という青春時代の教訓はここに生かされた思いだ。

2005年 30数年の教員生活を終え、第2の人生に入って1年が経過。健康第1、
せつせと水泳に通っている。「中碁連」の健全な発展を願っている。



「世代を超えて楽しむ」

神奈川県中学校囲碁連盟

前会長 三橋 敬夫

中学校囲碁連盟 10 周年おめでとうございます。

すばらしい活動になり驚いております。結成のときの苦労は、水野先生や大林、石川先生よりよくお聞きしております。

私も中学校で囲碁部の指導をしておりましたが、他との連携がなく校内だけの活動では、盛り上がりがもう一つなく長続きが難しかった思い出があります。

そのような折り、中学校間の横の連絡をとりながら囲碁連盟が結成されました。小中学校のクラブ・部活動の顧問先生方、県高等学校囲碁連盟、県囲碁連合会、県囲碁普及会、日本棋院、顧問になっていただいた原田実先生、神奈川新聞社等大勢のいろいろな組織・団体のご協力や後押しをうけて充実発展をして今日に至りました。

各種大会や認定大会等を通して、子供たちは囲碁の向上はもちろん、礼儀・団体活動、囲碁を通じてのコミュニケーションなどいろいろなことを学びながら発展してきました。

本当にすばらしい活動になってきています。

現在私は横浜市立小学校のコミュニティハウスに勤めています。館の自主運営事業として、囲碁入門教室を元中学校の先生にお願いして始めてもらいました。先生のご指導よろしく今では 20 名近くなり、教室は終了したのですが会員の方々が先生にお願いして囲碁の会として活動が続いています。

会員の年齢が七十代の後半から小学生幼稚園児まで年齢幅が七十年という広さです。そして男女半々ぐらいの活動です。それを五十代の先生がよくまとめて指導して下さり、また年長の方々は人生の先輩として囲碁以外のことについても若い人にいろいろアドバイスをしています。

会員の方の中には、「この世代を超えた交流は昔の日本のよい時代のありようである。」と言っている方もいました。世代交流が自然に楽しみながらできることを、本当にすばらしいうれしいことだと感じています。

私はこれを、碁コミュニケーションと呼んでいます。この輪がもっと広がっていくことを願っていますし、応援していきたいと思っています。

これからも神奈川県中学校囲碁連盟が発展し、囲碁を通して、中学生のコミュニケーションが広がることを祈念しています。

～中囲連10年のあゆみ～

1996年度～2005年度

<1996 (H8) 以前>

- '94.9.17～18 亀井栄吉氏 (高囲連理事長) より水野晴行氏 ((横浜市立豊田中学校) へ、
神奈川県中学校囲碁連盟設立の相談。 於: 「ひめしやら」
- '95.11.23 県高等学校秋季囲碁大会に、豊田中とすすき野中の囲碁部員が、特別参加。
すすき野中の引率顧問は、大林清氏。 於: 神奈川新聞社
- '95.12.2 第1回神奈川県中学校囲碁連盟設立準備会…参加者: 水野晴行氏 (豊田中)、
大林清氏 (すすき野中)、石川勝義氏 (川和中)、岩佐高囲連会長 (瀬谷高校長)、
亀井栄吉高囲連参与 (磯子工業高)、小座野修高囲連理事長 (山北高)。
於: 日の出手談
- '95.12.9 豊田中、すすき野中、川和中の3校及び釜台囲碁愛好会 (指導者=橋本誠
氏) との交流試合 於: 保土ヶ谷・釜台自治会館
- '95.12.15 横浜市教職員囲碁大会にて、水野晴行氏 (豊田中) より神奈川県中学校囲
碁連盟設立の呼びかけ 於: 県教育会館

<1996 (H8) >

- 7.11 第2回神奈川県中学校囲碁連盟設立準備会 神奈川県中学校囲碁連盟結成
初代会長に、中村正明氏 (横浜市立瀬谷中学校長) 初代理事長に、水野晴行
氏 (横浜市立豊田中学校) 於: 県立磯子工業高等学校
- 7.29 第1回神奈川県中学校囲碁選手権大会 兼 段級位認定大会開催
於: 横浜市立豊田中学校
- * 神奈川新聞、週刊「碁」に大会結果が掲載=『全国初! 神奈川県で中学校
の選手権大会』の見出し。…p 27 参照
- 10.3 役員会開催 連盟規約成立
- 11.18 囲碁部・クラブに関するアンケート調査実施 (横浜市内の学校中心)
* 結果 小学校 355 校中 183 校回収…活動校 37 校
中学校 145 校中 73 校回収…活動校 10 校
- 11.23 県高等学校秋季囲碁大会に、川和中囲碁部員5名が、特別参加。それ以降も、
高等学校の囲碁大会や合宿に、多くの中学校の生徒が特別参加。
特別参加は、2001 (H13) 年ごろまで続いたが、それ以降は、高校生の
囲碁人口も増加して、参加できず。…以後参加校の記述は省略。

<1997 (H9) >

- 2.9 第1回 神奈川県小中学校春季囲碁段級位認定大会開催
大会には、小中学生合わせて65名参加。19級以下は、13路盤使用。
於: 横浜市立名瀬中学校コミュニティスクール
- * この大会は、第4回大会まで続いたが、他の大会に吸収される。
- 4.23 平成10年度神奈川県中学校囲碁連盟総会 於: 横浜市立大正中学校
二代目会長に、高橋三善氏 (横浜市立大正中学校長)
- 6.15 第18回少年少女囲碁大会神奈川県大会開催—日本棋院より、県大会の
企画運営を依頼され了承する。県大会は、本連盟が主催。於: 横浜囲碁会館
* 第18回大会以降も、いろいろな大会と兼ねながらも、県大会は、毎年
本連盟主催 (2002年からは、小囲連と共催) で行っている。
- 9.6～7 中高囲碁指導者研修会 講師: 小島高穂九段 於: 三浦保養所

<1998 (H10) >

- 3.14 「かながわファミリー囲碁教室」 於: ウイング横浜
* 参加者100名ほど…中囲連役員は、インストラクターとして参加。
- 4.19 東京都中学校囲碁連盟設立
- 4.23 平成10年度神奈川県中学校囲碁連盟総会 於: 横浜市立大正中学校
三代目会長 三橋敬夫氏 (横浜市立藤の木中学校長)
- 8.10 週刊「碁」(囲碁新聞)に、神奈川県特集のなかで、中囲連の活動の様子が
大きく掲載される。10.19 週刊「碁」(囲碁新聞)に、座談会形式で、東京・
神奈川の「中囲連」の設立時からの流れが大きく掲載される。
- 11.3 第1回任天堂こども囲碁大会 (大会参加者712名) …本連盟は後援。イン
ストラクターとして、7名が大会運営に当たる。(水野、石川、杵鞭、堀田、
大林、土尾、吉武) それ以後も、毎年この大会は5月に行われている。
* 大会終了後、東京・神奈川の「中囲連」役員交流。今後の交流について

話し合う。 東京2名、神奈川4名参加。 於：日本棋院（大会会場）

<1999 (H11)>

- 7.4 第20回少年少女囲碁大会神奈川県大会 於：青少年センター
応募者209名（当日の参加者190名）
アニメ「ヒカルの碁」の影響もあって、今後は、「200名～300名規模の大会を想定して準備を！会場はどこに？」などと、うれしい悲鳴が。
- 10.23 湘南ひらつか囲碁まつり級位認定大会 …… 平塚市文化財団と共催
* 「年齢を超えて、こどもとお年寄りの交流を」がテーマ
於：平塚市勤労会館
- この大会は、2004年まで続く。

<2000 (H12)>

- 2.26 第4回神奈川県小中学校春季囲碁段級位認定大会 於：青少年センター
参加者158名
* 第1回大会から続いたこの大会は、今回の大会で実質幕を閉じる。
- 3.30 全日本こども囲碁大会 第1回神奈川大会及び入門教室 …… 本連盟は協力。
参加者177名 於：横浜技能文化会館
* 大会の開催に当たっては、高木祥一九段、府川浩二氏、福田哲夫氏ほか数名と中囲連役員との会合が多くもたれた。連携のあり方では意見の食い違いもあったが、2001年度からは、共催で開催。
- 4.30 高等学校囲碁大会は、高囲連と中囲連が共催で開催。高校大会で、13路盤を初めて使用する。（13路盤のクラスを中囲連担当） 於：青少年センター
- 7.30 神奈川県中学校囲碁連盟設立5周年記念小学生囲碁大会開催。
於：横浜市立希望ヶ丘小学校
* 大会事務局の土尾隆志氏（横浜市立希望ヶ丘小）を中心に、小学校役員が精力的に取り組む。
- 10.9 第1回関東中学校囲碁選手権大会 於：いずみ囲碁サロン（東京・八重洲）
* 本県からは、13校20チーム出場
神奈川県の大会事務局は、中囲連事務局長の石川勝義氏（横浜市立西中）、理事の、堀田重光氏（川崎市立中野島中）坂本作次氏（川崎市立住吉中）の3名が担当。年1回開催。会場は同じであるが、「いずみ囲碁ジャパン」に名称変更。

<2001 (H13)>

- 1.13 神奈川県小学校囲碁連盟設立
会長 加藤俊一（横浜市立菅田小学校長）
理事長 澤田勝利（横浜市立鶴ヶ峯小学校）
事務局長 土尾隆志（横浜市立中和田南小学校）
- 2.10 神奈川県小学校囲碁連盟設立記念囲碁大会 於：囲碁サロン「有心」
6. 神奈川県公立中学校における囲碁部及びその他の囲碁活動に関するアンケート調査実施 対象：416校（回収221校）
活動校31校+私立校7校
- 7.23 初めての川崎地区囲碁選手権大会開催。12.8には新人戦も開催。堀田重光氏（川崎市立中野島中学校）が呼びかけ。それ以降、夏と冬（新人戦）に毎年実施している。
- 12.23 第1回神奈川県中学校囲碁選手権大会新人戦 於：川崎市立中野島中学校
参加校15校 115名参加。その後、この大会は続いている。
* 横浜市以外での県大会は初めて。

<2002 (H14)>

- 4.25 定期総会 於：青少年センター
四代目会長 齋木孝道氏（横浜市立あざみ野中学校長）
二代目理事長 飯野詮芳氏（横浜市立山内中学校）
- 12.22 県央地区囲碁選手権大会新人戦大会開催。杵鞭一郎氏（相模原市立上溝南中学校）が呼びかけ。それ以降も、毎年実施している。

<2003 (H15)>

4.24 定期総会

於：青少年センター

出席者10名

7.26～27 小中役員会及び囲碁研修会

於：「浜京」(綱島)

参加者 22名

<2004 (H16)>

6.6 第1回事務局担当者会開催(それ以降、年7回開催)

大会マニュアル、10周年記念誌、大会原案作り等を検討。

7.4 第25回少年少女大会神奈川県大会と兼ねて、第1回文部科学大臣杯小中学校囲碁団体戦神奈川県大会を小中連、支部連合会と共催で開催。

会場は、横浜地区(宇宙棋院、有心)県央地区(相模原教育会館)小田原地区(市民会館)の3会場で実施。

10. 神奈川県中学校囲碁連盟ホームページを開設。

【担当：杵鞭一郎氏(相模原市立上溝南中)】

<2005 (H17)>

2.5～6 東京都中中連との合同研修会に、飯野理事長(横浜市立山内中)をはじめ、事務局担当の、石川勝義氏(横浜市立日吉台中)杵鞭一郎氏(相模原市立上溝南中)仲野隆一氏(川崎市立向丘中)が参加。都中中連は、小松理事長をはじめ、計6名参加。 於：「杉の宿」

* 両連盟の取り組みについての意見交換、関東大会の今後の位置づけ等の話し合い、親睦囲碁交流会。

4.23 定期総会及び囲碁部顧問会議開催

於：長津田地区センター

創立10周年記念行事、及び新たな大会=2005県中学校段級位認定大会開催を決定。

6.19 第25回 少年少女囲碁大会神奈川県大会

於：相模原教育会館

7.10 第10回 神奈川県中学校囲碁選手権大会

兼 第2回小中学校囲碁団体戦神奈川県大会

於：県教育会館

7.30 小中役員会

於：かながわ県民センター

* 意見交換、6/19少年少女大会・7/10第2回文部科学大臣杯小中学校囲碁団体戦神奈川県大会の反省、H18.3こども囲碁大会共催開催にあたって、が、主な議題。

10.23 2005神奈川県中学校段級位認定大会 於：県教育会館

参加生徒数 計 152名

有段の部 27名 A級(1～5級)の部 23名

B級(6～10級)の部 28名 C級(11～18級)の部名

D級(19～25級)の部 その後この大会は毎年開催

12.3～4 小中合同囲碁研修会(中中連創立10周年記念式典・祝賀会)

於：浜京(綱島)

10年間のご支援・ご協力、ありがとう!

<新聞等での報道>

・日本棋院=週刊「碁」、碁ワールド、他 ・神奈川新聞社(故滝川榮夫氏ご尽力)

<資金援助>

・県支部連合、碁会所、他囲碁団体

・NEC(小林靖典氏ご尽力)

・大平正芳財団(潮田巖氏ご尽力)

・日の出棋院<大会参加賞提供含む>

・こども囲碁普及会、他

<優勝カップ寄贈等>

・豊田中学校(かしわ会長吉原芳雄氏、元PTA会長小野清仁氏ご尽力)

10周年を迎えられたのも、皆様方のお力添えを頂けたからと、心より感謝申し上げます。

◆ なお、大会は、第1回大会以外は主な大会しか取り上げていません。また、役員会及び総会、小中役員囲碁研修会(年2回……2005年度は1回に)についても、主なものにとどめてあります。ご了承ください。

事務局長を3年間務めての感想と思い出

神奈川県中学校囲碁連盟

前事務局長 大澤 英男

平成13年、怪我をされて闘病生活が続いていた理事長・水野先生がその役職から下りることとなり、また石川先生も一時、体調を壊してやはり事務局長として動き回ることが出来なくなってしまい、急きょ後任として理事長は飯野先生、事務局長は私が受けることになりました。

それまで大会の運営を直接手がけることもなかった自分にこの大役が務まるかどうか全く自信がありませんでした。

幸いお互いに新任ということもあって、飯野先生とはしょっちゅう連絡を取り合い、他の役員さんの協力も得て何とか活動も軌道に乗せることができました。

日本棋院関係の皆様と連絡を取り合うのも楽しかったです。調子に乗って、事務局だよりを初年度は3回、あとの2年間は2回ずつ、名簿づくりや、時々の記事を載せて発行しました。たいした中身ではありませんでしたが、作っていて結構楽しかったです。

思えば私が役を引き受けた頃、コミック「ヒカルの碁」がきっかけでこどもたちの間に囲碁ブームが湧き上がり、こども向けの大会も大盛況。

杵鞭先生の尽力で、相模原市民会館・相模原教育会館という大きな会場を開拓し、300人以上の規模で大会も開かれるようになりました。

しかし、「ヒカルの碁」の連載が終わるとともに参加者の数は下降線をたどっています。中学校の囲碁部の数も一時期と比べると減少傾向にあるようです。

新しく囲碁部をつくることの難しさ、顧問が転任して後を継ぐ人を確保することの難しさ等、中学校囲碁連盟の発展もなかなか大変かと思われます。

しかし、欲張らずに今ある大会をしっかり運営していくことが肝心かと思ひます。

そのためにも、役員の数を確認し、みんなで仕事を分け合うことにより一部に負担が偏らないようにすることが肝要かと思ひます。

私は昨年春に退職し現場を離れました。

ちょうど最後の3年間を事務局長として活動できたことが幸せでした。

今後たいして役には立てないとは思ひますができる範囲で中囲連の応援をしていきたいと思ひています。

最後に、いろいろお世話になりました中囲連・小囲連の先生方、日本棋院の方々、神奈川県新聞の山本様その他たくさんの方々に感謝し御礼申し上げます。

そして中囲連の今後の発展を心から祈念しています。

神奈川県中学校囲碁連盟10周年おめでとうございます

川崎市立橋高等学校定時制勤務（前川崎市立中野島中学校） 堀田 重光

当時、公立中学校の新生で囲碁ができる生徒は、残念ながらほとんどいない状態であった。新生のほとんどが将棋ができることであった。そこで、入部をしてもらうことがもっとも大事であると考えた。囲碁と将棋は、二人で盤面上で勝負するところが同じであり、囲碁への移行は、スムーズにできるものと考えた。それは、一対一で静かな中にも緊張した雰囲気での勝負ができることが、生徒達に「心地好い緊張」を与えていたからである。

平成8年2学期からは、囲碁を中心にやり、教育的効果のあることを再度実感した次第である。この年、本校の囲碁・将棋部の活動に影響を与えた大きなニュースが飛び込んできた。新聞記事は、小さかったけど「第1回神奈川県中学校囲碁大会実施」でした。大会は、すでに終了していましたが、来年は、実施されると思えばすぐに神奈川県中学校囲碁連盟の横浜の石川先生に電話したことを覚えている。「来年は川崎の中野島中学校からも参加したい。」と伝えました。神奈川県に中学生の大会がスタートしていた。これは、大きな部活動の目標になると思った。目標ができると中学生の場合もその目標に向かってよく努力するものである。このニュースのおかげで、もしかしたら生徒達の存在を認められる機会がやってきたと強く感じた。第1回神奈川中学校大会団体戦を立ち上げた横浜の水野先生、石川先生、大林先生のご苦勞は、大変だったことだと思った。このニュース以後、本校は、県大会の参加者数が一番多い学校に飛躍した。第2回神奈川中学校大会団体戦（平成9年度）から参加して、第3回神奈川中学校大会団体戦（平成10年度）では、団体戦に8チーム参加希望を出したこともあった。囲碁のできる生徒が40人ぐらいに増えたことは驚きであり、嬉しかった。平成10年度の東京都中学校囲碁大会に神奈川県代表として、川崎市立中野島中学校生徒が多数参加した。東京都中学校囲碁連盟の小松光太郎先生はじめ皆さんの温かい支援があり実現しました。そして、平成11年度の神奈川県中学校囲碁大会には、東京から西東京市立保谷中学校生徒が多数参加した。東京都中学校囲碁連盟と神奈川県中学校囲碁連盟で2年間の交流対局が実現して、関東大会設立の準備となった。そして、平成12年度に第1回関東中学校囲碁大会が実現した。これは全校生徒に大きな影響を与えた。特に運動部の生徒にとっては、関東大会出場とはすごいことのように感じていたからです。また、神奈川県中学校囲碁連盟会長の三橋校長の尽力で、第1回神奈川県囲碁大会新人戦が平成13年12月23日に実施された。会場は、川崎市立中野島中学校であり、団体戦と認定戦である。団体戦は、16チームのシード校である。新人戦の実現により、参加した生徒にとって、これで運動部と同じになれたことを喜んでいました。囲碁の普及にたいへん努力していた会長はじめ関係者皆さんの努力に感謝します。



囲碁ブーム考

神奈川県中学校囲碁連盟

理事長 飯野 詮芳

日本の囲碁は仏教と同時期に伝来してから 1400 年脈々と受け継がれて来ました。囲碁を愛する多くの人により囲碁文化の継承が展開され、この先も人類が滅びるまで続いて行くのでしょうか。そうあって欲しいものです。それは囲碁というものがあまりにも深遠で価値あるものだからです。囲碁の洗礼を受けた者は伝承者となるでしょう。喜びは一人より大勢の方が倍加するからです。そして他の人に分けてあげたい気持ちになるのがごく自然なことだからです。またそれが手厚い一手でもあるのです。

バレーボールの顧問として 20 数年携わってきましたが、並行して楽しんで来た碁石に持ち替えました。教師生活になった年に先輩に指導を受け魅了されハマッテしまいました。しかし普及という点では成功した経験はあまりありませんでした。そんな折り、沢山の子も達を引率してきた顧問の執筆した本をいただきました。内容は狭い盤 9 路、13 路での初心者への指導を書いた本でした。目から鱗が落ちたようでした。この指導法ならどんなに幼い子でもほんの短時間で理解させることができる。まさに私にとっては革命のようでした。自信と元気が湧き出て来たのを今でも覚えています。

我々の活動は部活動やクラブの中で一度に多くの指導が可能なことです。囲碁界の発展にはスターが出ることを否定はしませんが、囲碁を理解する人が大勢いて盛り上げる背景があることの方がもっとも大切なのです。

1999 年救世主が現れました。それは週刊ジャンプに囲碁をテーマにした漫画「ヒカルの碁」でした。ほったゆみ(ストーリー) 小畑健(画)原作の作品は子供から大人まで、さらに囲碁に興味のない子供たちまでも巻き込みハートを掴みました。そのストーリーと囲碁の深い知識やドラマチックな人間模様が巧みに描かれ、見るものを魅了しました。これほど多くの子供たちに夢と感動を与えたものは過去にあったでしょうか。ヒカルから受けた感動は潜在意識として残り 10 年 20 年後でも機会が生まれた時に花が開くことでしょう。作為が本因坊秀策やヒカルに憑いたように・・・

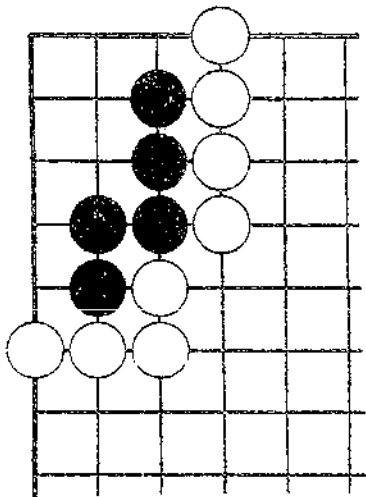
部活動や囲碁教室に入る数は以前とは比較にならない程増加し盛り上がりを見せています。テレビ東京の放映終了後下火になったとはいえ、現在は地方のテレビ局が放映しており、このブームは地方をも盛り上げ日本の囲碁界の底上げとなることは間違いありません。単行本・DVD・ビデオ・ゲーム機が発売され加速しています。見ていない囲碁愛好者には是非お勧めします。メディアの力はとてつもなく大きいことがわかりました。第 2 弾を期待すると共に一人でも多くの囲

碁理解者が増え、益々の発展を願うと共に尚一層決意を固くするものです。

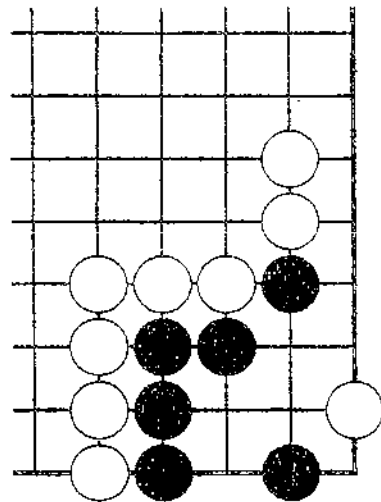
「…ホラ碁盤には九つの星があるだろう？ ここ宇宙なんだ・そこに石をひとつひとつ置いてくんだ・星をひとつひとつ増やすようにさ・どんどん宇宙を削ってくんだ・まるで神様みたいだろう・俺は神様になるんだよ・この碁盤の上でー」《ヒカルの碁 第2巻より》

黒先黒生き3手迄

(1)



(2)



(高囲連・囲碁合宿 = 級位者特訓 教材より)

「囲碁を始めた頃」

第1回大会出場

横浜市立川和中学校卒 柳下 雅則

今年で23歳になる私が囲碁を始めたのは13歳の時である。それは1995年であり、今年10周年を迎える神奈川県中学校囲碁連盟の発足と同じ頃になる。部活を探していた私を担当の石川勝義先生が囲碁部へ誘ってくださった。石川先生は転任なされてきた初年度で、新しく囲碁部を創設なさるとのことであった。文化部を希望していたうえ、新しい部を作っていき楽しさから、お世話になることにした。

当初、文化部の活動は適当なものだと思っていた。しかし、予想を覆し、部活活動時間いっぱいまで練習があるうえに、土曜練習、夏休み練習もあった。また石川先生も一生懸命、物覚えの悪い幼稚な私たちに付き合ってくださいました。そのような熱意あふれる御指導の成果は我々の実力となって徐々にあらわれてきた。私はその「あらわれ」が遅かったのだが、同期の友人は社会人との交流試合で相手を次々と負かせていた。

石川先生の御尽力もあり、神奈川県中学校囲碁連盟が作られることになり、県大会が開かれることとなった。初の実戦のうれしさ半分、創部メンバーでひときわ弱い私は団体戦があることを気にかけていた。個人戦は負けても個人の問題だが、団体戦はそうはいかない。案の定、私の戦果が振るわず、記念すべき第一回大会は2位となった。結果は不本意なものではあったが、初めての県大会というものに、充実感一杯であった。

今でもたまにネット上で見知らぬ人と囲碁を打つ。今のところ負けしらず。昔とった杵柄は健在である。
(横浜国大大学院生)

モノクロワールド

第10回大会出場

聖光学院中学校3年 東 成樹

ベートーベンさえ聞いたことのない生徒たちの大喝采と、時々上がる「ヒーガシー！！」などという野次に包まれ、県大会優勝、全国大会第3位の私たち3人は聖光学院のステージで表彰されていた。すべては、数ヶ月前の中学校囲碁選手権大会で始まった。

私たち3人東・森・河原はライバル校浜岳中をついに打ち負かし、身に余るほどの栄誉である特大カップと碁盤の刻まれた盾を手に、全国大会へのチケットをゲットした。そして、持てる力を最大限発揮し、予想だにできなかった栄冠全国3位へと輝いた。なんでこんなに上手くいったのだろうか。日々の努力？-y e s. ある部分では。偶然の結晶？-y e s. ある部分では。

私たちは毎日昼休み集まって囲碁を打った。負け続けると恥ずかしくて友達と顔を合、わせられない。この緊張感が私たちの碁の勉強やモチベーションを燃え続けさせてくれたのだと思う。だから私たちはここまで来れたのだ。

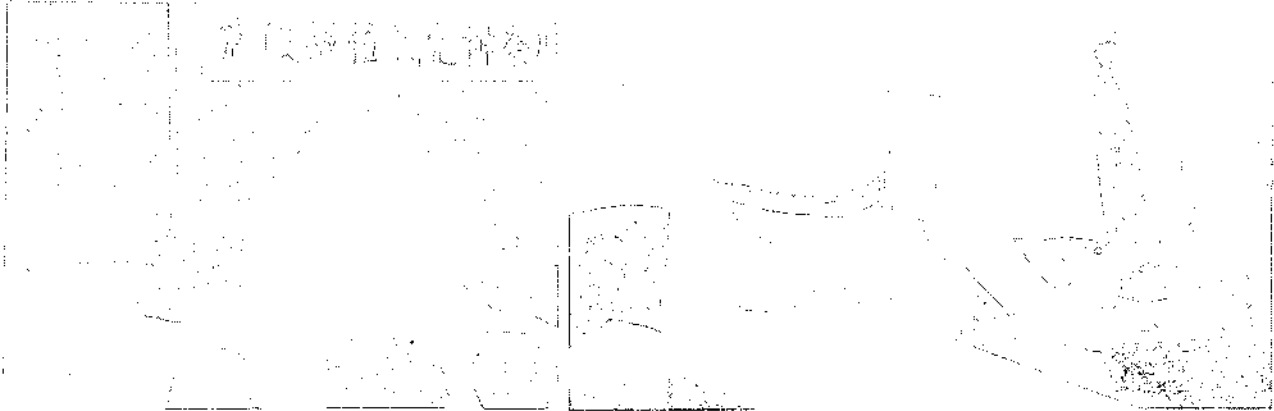
また、先生方への感謝も決して忘れはしない。顧問の先生は私たちをよく碁会所に連れていき、強い先生と打たせて下さった。100冊以上ある碁の本をロッカーにすき間なく入れて、私たちの「宝の山」を作って下さった。また、アマ八段ぐらいの女性の優しい師匠が私たちにはいる。手直ししていただいたり、本をくださったり、すばらしい先生だ。先生方、ありがとうございます。今後ともよろしくお願いします。

第1回県大会

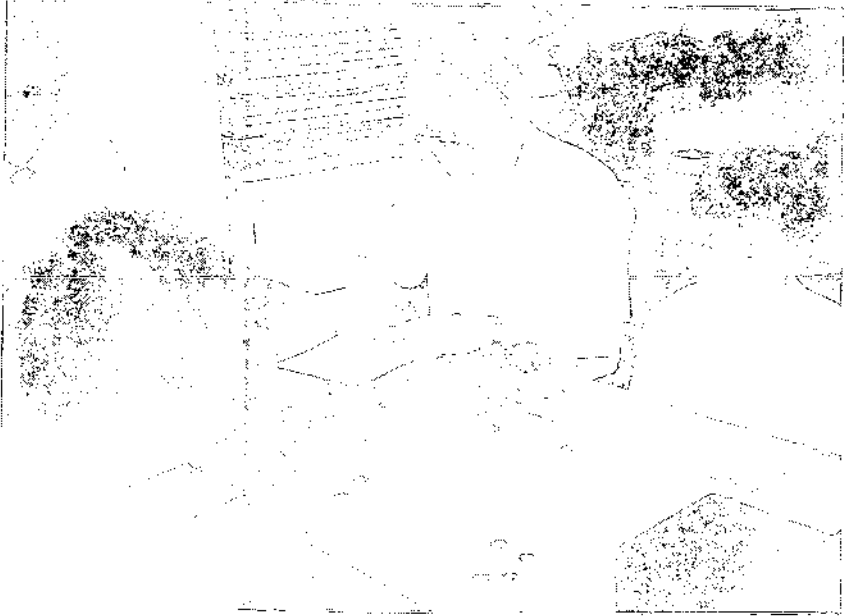
開会式

第一回 高岡県高等学校

第1回県大会



高岡連の先生方の
応援も……



岡春雄先生（左）

小島高棟先生（右）

原田実先生
の指導幕も……



東京・神奈川中間連役員会「杉の宿」

2005、関東大会
開会式



2005 こども囲碁大会

小島高棟九段、高木洋一九段 挨拶

全日本こども囲碁
2005年大会
第6回 神奈川大会・後

全日本こども囲碁大会
2005年大会
第6回 神奈川大会・後



全国初！神奈川県で 中学校の碁選手権

1996年(平成8年)7月30日

神奈川県は全国初の中学校碁選手権大会が発足。それを記念して、七月二十九日、横浜市立豊田中学校で、第一回県中学校碁選手権が開催された。

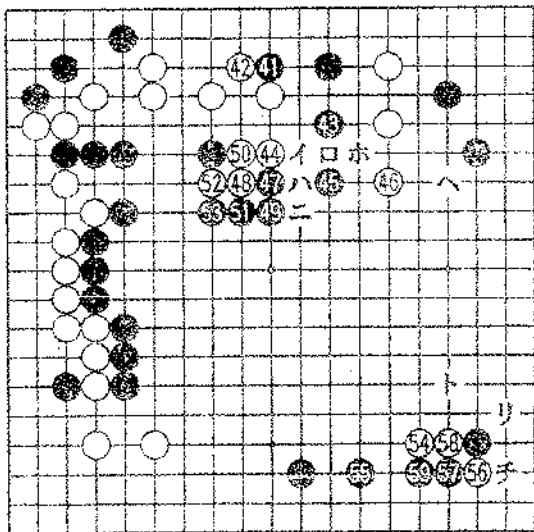
団体戦優勝は豊田中 第1回県中学校碁選手権 段級位認定大会も兼ねる

第一回県中学校碁選手権大会、兼段級位認定大会が二十九日、横浜市立豊田中学校で行われ、団体戦で同校が優勝した。



大会は、県中学校碁連盟(同市立豊田中学校長、中村正明会長)が中心となり、全県に先駆けて組織されたもので、この大会で正式に組織された。

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19



第1回 県中学校碁選手権
段級位認定大会
2日(初段) 岸上 敏之(長瀬田中二年)
5日(初段) 濱田 智(14歳) 芝野中(碁)

連盟結成

大会は、県中学校碁連盟(横浜市中区立豊田中学校長、中村正明会長、同市立豊田中学校教諭・水野勝管理本部長)が七月下旬、都道府県連盟へ申しこみ、正式に組織された。この大会で正式に組織された。

大会は、県中学校碁連盟(横浜市中区立豊田中学校長、中村正明会長、同市立豊田中学校教諭・水野勝管理本部長)が七月下旬、都道府県連盟へ申しこみ、正式に組織された。この大会で正式に組織された。

大会は、県中学校碁連盟(横浜市中区立豊田中学校長、中村正明会長、同市立豊田中学校教諭・水野勝管理本部長)が七月下旬、都道府県連盟へ申しこみ、正式に組織された。この大会で正式に組織された。



県中囲連が「特別アンケート」

いま、中学校で碁は？

神奈川県の場合

象に一度実施している)。寄せられた回答は二百二十一校から(回収率五十三%)。さて、その結果は？

県規模でのこのような調査は、全国でも初めてではないだろうか。

◇◇◇

三十八校、二百四十六名、

囲碁部は、県内の三十一の中学校にあることがわかった。その他回答を寄せたくれた私立の七校(本連盟が掌握している学校)をあわせると三十八校になる。

県内部員の合計は二百四十六名。掌握できていない十一校を考慮に入れると部員数は三百名を超えるものと考えられる。

また、教員についての調査項目では、囲碁の愛好者があると回答した学校は七十二校で、その数は百十五名になる。うち七十七名は個人名や棋力の回答もあった。

〈横浜地区〉

五年前と比べると、公立中学校では、四校から二十校に増加していることが分かった。少子化に伴い教員数が減り、どの学校でも

部活動を支える顧問探しで大変な苦労がなされている中、この増え方は予想をはるかに上回るものといえる。

特に部員が多かったのは日野南中学校の二十名以上で、部の名前もユニークな「囲碁でドン」。

アンケート回答校数は三十九校であるが、囲碁あるいは将棋を活動に取り入れている学校数は十八校であった。また、「囲碁のできる生徒はいるが部がない」という学校も二校あった。

残りの学校では碁を打てる先生はいるが部活動を行える環境がまだできていないようである。

先生たちの声

意見要望をいたただけた各地区の先生方の声を紹介したい。

◇横浜地区 中国や韓国のように小中学校でも取り入れられると良いと思えます。(大道中・鈴木先生)

◇川崎地区 生徒の棋力が高ければ連盟のような組織が必要ですが、本校のレベルではこのような組織は必要ないと思われる。(生田中・佐藤三郎先生)

◇相模原地区 他団体の役員の仕事があるため、役員(囲碁連盟の)は無理ですが何らかの形で協力していきたい。教育現場に囲碁を取り入れたい。部活動としてもちろん取り入れたい。(上溝中・吉川恵隆先生)

大会参加数増加

「神奈川県中学校囲碁連盟」が出来たことで、徐々に県内に囲碁部が増加していることがわかった。その様子は、本連盟が主催する大会にも見事に反映している。



仲間が増えれば、やる気も倍増。神奈川の中学生たち



県中学校囲碁連盟の呼びかけにより大会も活気を帯びてきた

〈他地区〉

その他(神奈川県下)では二十二校から回答が届き、内三校で囲碁将棋部が

第9回・第10回 県大会

碁会 中学校団体戦 県選

上溝南が初優勝

母校の期待を担って熱い戦いが繰り広げられた
 横浜市立日吉台中学校



第九回県中学校団体選権大会(県中学校団体選連盟主催、神奈川新聞社など後援)が二十三日、横浜市港北区の市立日吉台中学校で開かれ、二十三日、二百五十人が参加した。
 選手権戦の決勝は、上溝南(川田侑宣、永田幸平、佐藤正隆選手)が浜岳を2-1で下し初優勝を飾った。上溝南は同大

会でこれまで、準優勝が二回。団体顧問の村野一郎教諭は「三度目の正直。悲願達成です」と、顔をほころばせた。
 大会は選手権戦のほか、棋力別にA、B、C、D級に分かれ一チーム三人編成による十六チームの交戦トーナメント四回戦もあり、すべて互先、先番六目コミ出しのルールで行われた。

第10回大会は、小中学校団体戦予選と兼ねて実施

聖光学院が初優勝

小・中学校碁団体戦 県代表8校決まる



第二回文部科学大臣杯小・中学校碁団体戦県予選(県小、中学校碁連盟主催、神奈川新聞社など後援)が十日、横浜市西区の宇宙棋院(小学部)で開かれた。予選は、聖光学院、平塚神明、桐蔭学園、浜岳にそれぞれ決まった。

小学校の部は、十一校三十三人が参加。中学校は全国につながる本戦に加え、棋力別四クラスの試合が行われ、三十三校から七十一チーム、二百三十人が参加した。
 競技は一チーム三人編成で、すべて互先、先番

成績は次の通り。
 選手権戦 ①上溝南 ②神明 ③愛川中原 ④南希望が丘 ⑤慶応義塾 ⑥上溝南 ⑦日市場 ⑧領家 ⑨聖光学院 ⑩向丘 ⑪領家 ⑫▽B級戦 ⑬慶応義塾普通部 ⑭中野島 ⑮桐蔭学園 ⑯神明 ⑰谷 ⑱神明

領家(第三)▽C級戦 ①住吉(第一) ②東橋(第二) ③南瀬谷(第一) ④保上ヶ谷(第一) ⑤浜岳(第一) ⑥保上ヶ谷(第二) ⑦▽D級戦 ①神明(第一) ②中野島(第一) ③山内(第三) ④西栗(第一) ⑤金沢(第一)
 (注)カッコ内は同一校のチーム番号。



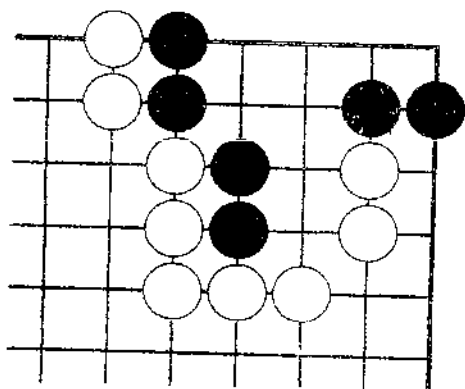
六目半コミ出しのルールで行われた。
 中学校本戦の決勝は聖光学院(東成樹、森優俊、河原淳一郎選手)が浜岳を2-1で破り、初優勝を飾った。
 聖光学院の工藤誠一校長は「全国出場枠の四校を目指していたが、まさか優勝するとは」と声を弾ませた。

聖光学院中学校
 小中学校団体戦
 全国大会 第3位

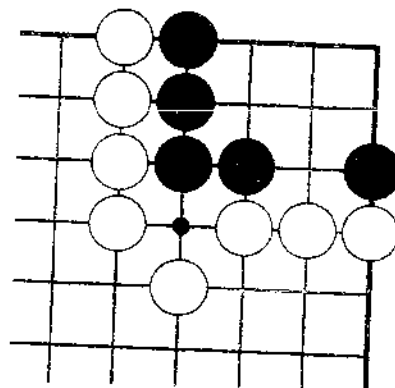
中学校の部の成績は次の通り。
 本戦 ①聖光学院 ②平塚神明 ③桐蔭学園 ④浜岳 ⑤A級 ⑥上溝南 ⑦向丘 ⑧浜岳 ⑨B級 ⑩上溝南 ⑪領家 ⑫野庭 ⑬C級 ⑭錦台 ⑮慶応 ⑯金沢 ⑰D級 ⑱秋葉 ⑲大綱 ⑳日吉台

< 資料編 >

(1)



(2)



(高囲連・囲碁合宿 = 級位者特訓 教材より)

神奈川県中学校囲碁連盟規約

- 第1条 (名称) 本連盟は、神奈川県中学校囲碁連盟と称する。
- 第2条 (事務局) 本連盟は、事務局を事務局長の在籍する学校に置く。
- 第3条 (目的) 1. 本連盟は、神奈川県内の中学校における生徒に囲碁に親しむ機会を与え、その輪を広げ、また、それを全国に広めていくことを第一の目的とする。
2. 神奈川県内の中学校における囲碁部、囲碁クラブの健全な発展をはかることを第二の目的とする。
3. 本目的達成のために神奈川県小学校囲碁連盟との連携をはかる。
- 第4条 (事業) 本連盟は、第3条の目的を達成するために、次の事業を行う。
1. 神奈川県中学校囲碁選手権大会の開催。
2. 神奈川県小・中学校囲碁段級位認定大会の開催。
3. 指導者のための囲碁講習会の開催。
4. その他目的達成のために必要な事業の開催。
- 第5条 (組織) 本連盟は、神奈川県下の小・中学校の囲碁に関心のある教職員および本連盟の活動に賛同する人達で組織する。
- 第6条 (総会) 本連盟の最高議決機関として総会を置く。総会は、会長・副会長・顧問・参与・理事をもって組織する。総会の議決は出席者の過半数の賛成を必要とする。
- 第7条 (理事会及び事務局担当者会) 本連盟の運営に関する実務を行うための機関として、理事会および事務局担当者会を置く。
1. 理事会は、総会によって選出された理事によって構成される。
2. 事務局担当者会は、理事のなかから互選された、10名以下の理事で組織する。
- 第8条 (役員) 本連盟に次の役員を置く。
1. 会長 1名 2. 副会長 1～2名 3. 顧問 若干名
4. 参与 若干名 5. 理事長 1名 6. 副理事長 1名
7. 事務局長 1名 8. 事務局担当 若干名 9. 会計委員 1名
10. 理事 若干名 11. 監査委員 1名
各委員の任期は、通常2年とする。ただし、再任を妨げない。補欠により就任した役員の場合は、前任者の残りの期間とする。
- 第9条 (会長・副会長) 会長及び副会長は、校長またはその補佐の職にある者の中から理事会が推薦し、本人の同意を得て委嘱する。
- 第10条 (理事長・副理事長) 理事長及び副理事長は、理事の中から互選によって選出される。理事長は、本連盟の運営に関する会務を統括する。副理事長は、理事長を補佐する。また、必要と認めるとき、理事長は、理事会を召集する。
- 第11条 (事務局長および事務局担当) 事務局長及び事務局担当は、理事の中から互選によって選出される。事務局長は、本連盟の運営に関する会務を行う。事務局担当は、事務局長を補佐する。
- 第12条 (会計委員) 会計委員は、理事の中から互選によって選出され、本連盟の会計を担当する。本連盟の運営に関する費用は、大会参加費及びその他の収入をもってこれに充てる。
- 第13条 (顧問・参与) 顧問及び参与は、教育関係者または囲碁関係者のなかから必要に応じて理事会が推薦し、本人の同意をえて委嘱する。また、顧問及び参与は、重要事項に関し、会長または理事長の諮問に応ずる。
- 第14条 (理事・監査委員) 理事及び監査委員は、総会によって選出される。理事は、理事会の決定に基づいて会務を分担し、監査委員は会計を監査する。
- 第15条 (規約改正) 本規約の改正は、総会の議決をもって決定される。
- 第16条 本規約は、1996年10月3日より施行する。
2001年4月26日改正
2005年2月26日改正

神奈川県中学校囲碁連盟 平成17年度 **年間事業計画**

期 日	事業内容および会場	備 考
4月23日(土)	定期総会 会場:長津田地区センター	
5月 1日(日)	第8回任天堂子ども囲碁大会 (インストラクター派遣) 会場:日本棋院	日本棋院と共催
6月19日(日) 6月19日(日)	第26回全国少年少女囲碁大会神奈川大会 第1会場 宇宙棋院、有心(小学生) 第2会場 相模原教育会館(小、中学生)	神奈川県小学校囲碁連盟と共催
7月 3日(日)	第3回県央地区中学校囲碁選手権大会県予選 会場:相模原市立上溝中学校	
7月10日(日)	第10回神奈川県中学校囲碁選手権大会 (兼 関東大会予選) 会場:神奈川県教育会館	
7月16日(土)	第4回川崎市中学校囲碁選手権大会 会場:川崎市立向丘中学校	
7月30日(土)	定期役員会	
8月 2日(火) 3日(水)	第26回少年少女囲碁大会全国大会 会場:日本棋院	日本棋院
8月17日(水) 18日(木)	第2回文部科学大臣杯小、中学生囲碁団体戦 会場:日本棋院	日本棋院
8月21日(日) 28日(日)	根来杯、県ジュニア囲碁十傑戦(予選) 会場:関内本因坊 同上 順位決定戦 会場:鎌倉囲碁クラブ	神奈川県支部連合会 神奈川新聞社
9月19日(祭)	第6回関東中学校囲碁選手権大会 会場:いずみ囲碁ジャパン	東京都中学校囲碁連盟と共催
10月23日(日)	2005年、神奈川県中学校囲碁段級位認定大会 会場:神奈川県教育会館	
12月10日(土)	第3回県央地区中学校囲碁選手権大会新人戦 会場:相模原市立上溝中学校	
12月18日(日)	第4回川崎地区中学校囲碁選手権大会新人戦 会場:川崎市立向丘中学校	
12月24日(土)	第5回神奈川県中学校囲碁選手権大会新人戦 会場:相模原市民会館	
3月19日(日)	(第4回毎日杯争奪神奈川県都市対抗戦) 会場:平塚駅ビル、ラスカ	神奈川県支部連合会
3月21日(祭) 26日(日)	全日本子ども囲碁大会第7回神奈川大会 ①相模原会場 会場:相模原市民会館 ②横浜会場 会場:神奈川県教育会館	神奈川子ども囲碁普及会、神奈川県小学校囲碁連盟と共催
4月 3日(火) 4日(水)	第9回全日本子ども囲碁大会 会場:京都、聖護院	全国子ども囲碁普及会

※ 上記以外に、理事会、年間10数回の事務局担当者会等を随時行います。

平成16・17年度 神奈川県中学校・囲碁活動(クラブ等)校 一覧

神奈川県下中学校の囲碁活動校の調査結果です。活動の組織名は、部活動以外に、生徒会活動・囲碁講座など活動形態も様々です。なかには「顧問は3名いますが、部員は今のところいません」という学校もあります。また、運動部の顧問と兼任で囲碁部の顧問を引き受けた、という方もいらっしゃいます。中学校においては、顧問の転勤での廃部問題は何も囲碁部に限った話ではありません。いろいろな状況がありながらも囲碁活動を担当していただいている顧問の方々に心より敬意を表します。
(相模原市立上溝南中学校 袴鞭 一郎 編)

	区 分	学 校 名	活動生徒数
《横浜地区》			
1	鶴見区	市場中	9
2	神奈川区	神奈川中	1
3	神奈川区	栗田谷中	7
4	神奈川区	錦台中	6
5	神奈川区	六角橋中	7
6	西区	軽井沢中	24
7	西区	西中	15
8	南区	平楽中	3
9	南区	永田中	15
10	港南区	日野南中	(生徒会)
11	港南区	野庭中	9
12	保土ヶ谷区	岩崎中	15
13	保土ヶ谷区	保土ヶ谷中	20
14	旭区	南希望が丘中	15
15	金沢区	金沢中	9
16	金沢区	西柴中	7
17	港北区	日吉台中	14
18	緑区	鴨居中	11
19	緑区	十日市場中	11
20	青葉区	すすき野中	6
21	青葉区	山内中	11
22	都筑区	川和中	5
23	戸塚区	秋葉中	6
24	戸塚区	大止中	5
25	戸塚区	豊田中	18
26	戸塚区	名瀬中	5
27	戸塚区	深谷中	10
28	栄区	西本郷中	10
29	泉区	泉ヶ丘中	5
30	泉区	いずみ野中	将7、碁0
31	泉区	領家中	19
32	瀬谷区	原中	3
33	瀬谷区	南瀬谷中	8
《川崎地区》			
34	中原区	住吉中	9
35	高津区	東橋中	20
36	高津区	橋中	12
37	多摩区	中野島中	8
38	多摩区	生田中	4
39	宮前区	向丘中	3
《県央地区》			
40	相模原市	上溝南中	26
41	相模原市	相模台中	13
42	相模原市	上溝中	9
43	大和市	大和中	20

	区 分	学 校 名	活動生徒数
《鎌倉市・平塚市地区》			
44	鎌倉市	岩瀬中	6
45	鎌倉市	深沢中	24
46	平塚市	神明中	14
47	平塚市	浜岳中	14
《私学》			
48	私立	浅野中	1
49	私立	横浜創英中	2
50	私立	慶應義塾普通部	8
51	私立	日本大学中	18
52	私立	聖光学院中	16
53	私立	神奈川大学附属中	21
54	私立	横浜中	1
55	私立	公文国際学園中等部	11
56	私立	山手学院中	1
57	私立	法政大学第二中	9
58	私立	日本女子大学附属中	8
59	私立	桐光学園中	19
60	私立	栄光学園中	2
61	私立	鎌倉学園中	4
62	私立	鎌倉女子大学中等部	0
63	私立	自修館中等教育学校	5
64	私立	慶應義塾湘南藤沢中等部	0
65	私立	逗子開成中	講座33

* 上記の表の活動生徒数のなかには、囲碁将棋部に所属して、「将棋だけやっている生徒」の数も入っている学校があります。

* 上記67校の中には、平成17年度は囲碁部が廃部となり、活動できなくなった学校も含まれています。また、平成17年度、新たに活動をしている学校も上がっておりますので、追加掲載いたします。

平成17年度 神奈川県中学校
・囲碁活動(クラブ等)校 一覧 =追加=

	区 分	学 校 名	活動生徒数
1	横・港北区	大綱中	27
2	横・金沢区	並木中	7
3	川・多摩区	枅形中	9
4	藤沢市	片瀬中	2
5	私学	藤嶺学園藤沢中	5

《 大会記録 》

★ 神奈川県中学校囲碁選手権大会（団体戦）

	実施日	会 場	入 賞 校	参加 校数	参加 人数
第1回	H08.7.29	横浜市立 豊田中学校	1位 豊田中 2位 川和中 3位 すずき野中	3校	42名
第2回	H09.7.22	横浜市立 大正中学校	1位 豊田中 2位 川和中 3位 旭中	6	39
第3回	H10.7.22	青少年センター	1位 豊田中 2位 鎌倉学園中 3位 川和中	8	35
第4回	H11.7.22	青少年センター 婦人会館	1位 保土ヶ谷中 2位 豊田中 3位 名瀬中	12	82
第5回	H12.7.28	青少年センター	1位 保土ヶ谷中 2位 名瀬中 3位 森村学園中	14	105
第6回	H13.7.26	青少年センター 婦人会館	1位 南希望が丘中 2位 名瀬中 3位 豊田中	17	118
第7回	H14.7.22	相模原市民会館	1位 南希望が丘中 2位 中野島中 3位 泉が丘中	19	112
第8回	H15.7.22	相模原市民会館	1位 浜岳中 2位 南希望が丘中 3位 神奈川大附属中	29	200
第9回	H16.7.23	横浜市立 日吉台中学校	1位 上溝南中 2位 浜岳中 3位 神明中	32	240
第10回	H17.7.10	県教育会館	1位 聖光学院 2位 桐蔭学園 3位 浜岳中	32	230

* 第7回（H14）大会は、参加人数の増加が予想され、認定戦は行わず。

★ 神奈川県中学校囲碁選手権大会新人戦（団体戦）

	実施日	会 場	入 賞 校	参加 校数	参加 人数
第1回	H13.12.23	川崎市立 中野島中学校	1位 南希望が丘中 2位 上溝南中 3位 中野島中	15	115
第2回	H14.12.26	青少年センター	1位 南希望が丘中 2位 上溝南中 3位 栄光学園	25	161
第3回	H15.12.26	青少年センター	1位 栗田谷中 2位 西中 3位 神明中	26	176
第4回	H16.12.25	相模原市民会館	1位 浜岳中 2位 向丘中 3位 聖光学院	23	142
第5回	H17.12.24 予定	相模原市民会館	?	?	?

【大会運営マニュアル】

大会は、選手権戦（団体戦）と段級位認定大会（個人）に分かれます。私たちは、連盟独自の大会以外に、日本棋院主催の「少年少女囲碁大会」や「小・中囲碁団体戦」、また、全国こども囲碁普及会主催の「こども囲碁大会」の賦予選の主催者として、企画運営に携わっております。ただ、ここでは、連盟独自の、選手権戦（団体戦）と段級位認定大会（個人）について、紹介いたします。今年の大会の資料をもとに大会の募集要項および役割分担について掲載しました。

<1> はじめに

どのような大会においても最低限やらなければならないことがあります。そのいくつかを取り上げてみましょう。

- (1) 主催、後援、協賛等の確認。後援は予め依頼申込みが必要です。地元新聞社は、3ヶ月前までに書類提出、等。県や市の教育委員会に後援を依頼することもあります。
- (2) 大会日・・・日曜日または祝日に大会を開催しています。（理由）・通勤時間に重なり、電車が混み合う。・私立校など、土曜日が休みでない学校がある。
- (3) 会場・・・*200名～300名が収容できる施設に限られ、会場探しが大変な現状です。*会場使用料は、15,000～50,000円ほど。（200名～300名収容施設）*会場予約は、6ヶ月前からできるところも多いので遅れないように注意を。
- (4) 大会参加費・・・1人500円～1,000円、ただし、団体戦は、1チーム3名～2,000円、と、大会によって違いがあります。ただ、年によっては突然会場使用料等上がることもありましたが、大会参加費でその大会を賄えるようにし、「大会で赤字が出ないようにしよう」が私たちのモットーです。
- (5) 競技規定・・・*選手権大会（団体戦）は、申告された選手の棋力により、クラス別に行います。すべてのクラスで簡易スイス方式を採用。以前は、トーナメント方式で行っていましたが、*段級位認定大会（個人）では、本連盟独自の認定基準を使用。「終局がわかる」を25級とし、19～25級までは、13路盤を使い6局対戦します。他のクラスは、4局対戦して、その結果で段級位を認定します。
- (6) 個人情報への扱い・・・大会名簿や大会写真の扱いには、十分に注意をしたいと思います。大会募集要項に、主催者側として、「個人情報」の扱いについての配慮事項を明記することや、FAXでの名簿送信等の是非についても検討していきたいです。

<2> 選手権大会(団体戦)

◆ 大会募集要項(例)

平成17年5月16日

〇〇〇中学校長 様
" 囲碁部顧問 様

神奈川県中学校囲碁連盟
会長 齋木孝道
(横浜市立上の宮中学校長)

第10回神奈川県中学校囲碁選手権大会 ～10周年記念大会～ 募集要項

標記の件について、以下の要領で開催致します。ご参加下さい。

なお、今年度の大会は、連盟創立10周年の記念大会として開催致します。ご了承下さい。

1. 主催 神奈川県中学校囲碁連盟
2. 後援 神奈川県小学校囲碁連盟 神奈川県高等学校囲碁連盟
日本棋院 神奈川県新聞社
3. 協賛 〇〇〇
4. 期日および時程 平成17年7月10日(日)

9:00 会場準備（役員の方には8:50においで下さい）
9:30 打ち合わせ（引率の方、お集まり下さい）

- 1 3路盤を使用する。
- 対戦は、すべて1段級差1子のハンディ戦とする。コミ6目、持碁白勝ち。ただし、D級戦（19～25級）は、下記のD級戦手合い割り表およびルールに従う。
 - 対戦は、持ち時間30分を目安に行う。段位戦では1回戦から時計をかけて行い、それ以外のクラスでも遅いところは時計を使用することがある。

(2) 認定の基準

クラス	4勝-0敗	3勝-1敗	2勝-2敗	1勝-3敗	0勝-4敗
段位戦 (有段者)	1段昇段	申告段認定	認定せず	認定せず	認定せず
A級戦 (1～5級)	1級昇級 初段認定は全勝者のみ	1級昇級	申告級認定	認定せず	認定せず
B級戦 (6～10級)	2級昇級	1級昇級	申告級認定	申告級認定	認定せず
C級戦 (11～18級)	4級昇級 上限8級	2級昇級	1級昇級	申告級認定	申告級認定
D級戦（19～25級） 6局打ち、勝つたびに昇級します。全敗の場合は、申告級認定。上限は16級。※13路盤使用、終局がわかる程度を25級とします。					

(3) D級戦について

- D級戦（13路盤）手合い割り表

級差	手合い割り	黒コミ出し
同級	互い先にぎり	6目
1級差	定先	なし
2級差	2子	6目
3級差	2子	なし
4級差	3子	6目
5級差	3子	なし
6級差	4子	6目
7級差	4子	なし

- 持碁は、白勝ち。
- 対戦後は、勝った人はただちに級位を上げ、次の対戦を行います。負けた人は同じ級でそのまま次の対戦を行います。
- コミは、対戦前に出しておきます。
- 始め方、ルール、教え方などがわからない時には、手を上げて、係の先生に聞く聞いて下さい。

1 2. 参加申込み方法および締切り日

(1) 個人申込み

往復はがきに、必要事項をご記入の上、下記事務局まで郵送して下さい。

- ※ 必要事項・・・①住所 ②氏名（ふりがな） ③性別 ④電話番号 ⑤学校名と学年 ⑥棋力（申告段級位）

(2) 学校単位の申込み

所定の申込用紙に、必要事項をご記入の上、下記事務局まで送付して下さい。FAXまたは封書、どちらでも結構です。

<注意> 申し込んだ段級位（申告段級位）は、当日の変更はできません。また、記入もれは受付できません。

<大会事務局>

郵便番号	住所	〇〇〇中学校	担当責任者名
FAX番号	TEL番号		

(3) 申込み締切り日 平成〇〇年△△月□□日（ ）必着

1 3. その他

【会場案内図】・・・略

★ 神奈川県中学校囲碁連盟ホームページアドレス参照

<http://www11.plala.or.jp/tyuuiiren/>

◆ 大会役割分担……当日スタッフ打合せ資料

第10回神奈川県中学校囲碁選手権大会
～10周年記念大会～ 役割分担

1. 事前準備・搬入

・(内容) しおり作成、対戦表(拡大)、対戦カード、受付用箱、事務用品、
ネームプレート、認定状、カメラ、対局時計、碁盤碁石、看板、弁当、飲料、ゴミ
袋<雨天時=かさ入れ>、領収書、支払い等会計事務……係分担

2. 当日の役割分担 …… 確認事項説明含む(担当者名)

* 審判長 ○○○先生

クラス	責任者	担当者
選手権戦	○○先生(△△中)	○○先生(△△中)・・・他3～5名
A級戦	○○先生(△△中)	○○先生(△△中)・・・他3～5名
B級戦	○○先生(△△中)	○○先生(△△中)・・・他3～5名
C級戦	○○先生(△△中)	○○先生(△△中)・・・他3～5名
D級戦	○○先生(△△中)	○○先生(△△中)・・・他3～5名
総務	○○先生(△△中)、○○先生(△△中)、○○先生(△△中)	
連絡調整	○○先生(△△中)	
認定状	○○先生(△△中)、○○先生(△△中)	
全勝賞記録	○○先生(△△中)	
写真記録	○○先生(△△中)、○○先生(△△中)	
棋譜	○○先生(△△中)	
会計事務 (含弁当)	○○先生(△△中)	
運搬<碁盤石 ・対局時計等>	○○先生(△△中)	
本部・渉外	・○○会長(△△中)・○○副会長(△△中)・○○審判長(△△)	

◆ 受付 …… 会計担当、他3～4名

3. 進行予定の確認

4. 開会式

・大会会長あいさつ ・優勝カップ返還 ・審判長あいさつ・ルール説明 ・運営上の注意・連絡	・司会 () (会長) (前年度優勝校) () ()
---	---

5. 閉会式(各クラスごとに)

・司会 ・成績発表 ・表彰及び講評	(会場担当者) (会場担当者) (会長または会場担当者)
-------------------------	------------------------------------

6. 会場図

必要な机・いすの数、および会場設計図、配置図を掲載。

<3> 段級位認定大会(個人)

◆ 大会募集要項……選手権大会(団体戦)大会募集要項(例) に準ずる。

1. ねらい
2. 主催
3. 後援
4. 期日および時程
5. 会場
6. 参加資格(神奈川県内に在住または在学している中学生)
7. 参加費(800円)
8. 参加定員
9. 持ち物(弁当、水筒、筆記用具、認定状入れ(手さげカバン)等。)
10. 競技規定<大会内容>

(1) ルール

○ 対戦は、有段～18級までは19路盤を使用するが、19級～25級までは、

受付開始 (会場準備が終了次第行う。)
 10 : 15 開会式
 10 : 30 競技開始
 12 : 30 昼食
 15 : 30 閉会式
 16 : 00 終了予定

5. 会場 神奈川県教育会館
 〒 220-0053 横浜市西区藤棚町 2-197
 TEL. 045-241-3536

* 会場図 掲載 * 交通機関 明記

6. 参加資格 神奈川県内の中学校 (学校単位でチームを編成) に在籍している生徒。

7. 参加費 1チーム 2000円。なお、弁当と筆記用具を持参すること。

8. 競技規定

① 1チーム3名による団体戦で行う。

② 選手権戦およびA, B, C級戦の4階級を設定する。ただし、参加チーム数が多い場合は、D級戦も設ける。各階級とも16チームによる簡易スイス方式で行う。クラス分けは各チーム上位2名の棋力による。(ただし、選手権戦は各校1チーム、16校にて実施する。)

③ チーム内の選手は棋力の高い順に主将、副将、三将とすること。また、第1チームの三将の次に棋力の高い選手は、第2チームの主将となり、以下順にチームを編成する。選手権戦以外は、1チーム2名でも参加できるが、欠席等により1名になった場合は失格とする。(2名の場合は三将を空席とし、三将は不戦敗とする。また、2名同士の対戦が1勝1敗の場合は、主将が勝ったチームを勝ちとする。)

④ 補欠の選手を各チーム1名登録することができる。補欠の選手は試合ごとに交替して出場することができる。補欠の選手は三将以外の選手とも交替できるが、棋力順を原則とする。

⑤ 申込み後の選手変更は当日の受付時のみ認めるが、それ以降の変更は認めない。

⑥ 原則として、19路盤を使用する。ただし、D級戦が行われるときは、13路盤を使用することもある。選手権戦では対局時計を使用 (持ち時間30分、切れ負け) する。状況を見て、A~C級戦でも使用することがある。

⑦ 対局はすべて互先 (先番6目コミ出し、ジゴ白勝ち) とする。

主将が握って先番を決め、以下交互に後手、先手とする。(例えば、主将が黒番なら、副将は白番、三将は黒番となる)

9. 表彰 各階級とも5位までを表彰する。また、選手権戦においては、1位~3位チームに賞状の他に楯や賞品を授与し、6位以下のチームには順位証を授与する。

10. 参加申込み

別紙申込用紙に必要事項をご記入の上、FAXで下記あてに送付して下さい。

6月17日 (金) 必着
 宛先 : ○○○中学校 (大会担当者名)
 FAX番号

※各校の参加チーム数に制限は設けないが、全申込みチーム数が80チームを超えた場合は、参加チーム数の多い学校の下位チームから辞退していただくこともありますので、予めご了承下さい。(その際は電話で連絡いたします。)

11. その他

当日は引率顧問の方に運営のお手伝いをさせていただきますので、予めご承知おき下さい。ご協力お願いいたします。

<別紙>

《 大会参加申込書 》……略

平成17年度神奈川県中学校困碁連盟役員名簿一覧

会長	齋木孝道	横浜市立上の宮中 校長	理事長	飯野詮芳	横浜市立山内中
副会長	高橋功	横浜市立鴨志田中 校長	理事	石川勝義	横浜市立白百合中
顧問	原田実			仲野隆一	川崎市立向丘中
	中村正明	初代会長		杵野一 郎	相模原市立上溝南中
	高橋三善	二代会長		石田唯之	慶應義塾普通部
	三橋敬夫	三代会長		大林清	横浜市立中山中
	金井正光	元副会長		豊崎誠	横浜市立名瀬中
	越憲人	元副会長		外谷健司	横浜市立瀬谷中
	溝呂木敏夫	元副会長		堀内治幸	横浜市立金沢中
	水野晴行	元理事長		吉永政昭	横浜市立大正中
	大澤英男	元事務局長		矢ヶ崎 馨	相模原市立上溝南中
	潮田 巖			山本 仁	相模原市立谷口中
	山口洋一			坂本作次	川崎市立田島養護
	伊藤 誠			山田 豊	川崎市立東橋中
	吉川春二			大津 匡	平塚市立神明中
	内山英幸			秋葉良文	平塚市立神明中
	久原照男			大島弘尚	栄光学園中
米山貞夫			石井 彰	日本大学中	
小林靖典					
	亀井栄吉	元高困連理事長			
	橋本 誠				
参与	若林健一	横浜市立日野南小 校長		若林健一	小困連 会長
	中山広巳	横浜市立綱島東小		中山広巳	小困連 理事長
	吉武顕二	横浜市立相武山小		吉武顕二	小困連 事務局長
	阿部孝之	横浜市立白根小		阿部孝之	小困連 会計
	伊藤 博	県立厚木西高 校長		伊藤 博	高困連 会長
	吉浜康雄	県立平塚江南高		吉浜康雄	高困連 理事
	龍澤 義明	県立湯河原高		龍澤 義明	高困連 事務局長
堀田 重光	川崎市立橋高		堀田 重光	元中困連理事・高困連役員	

* 参与の方は、小困連または高困連の役員を兼ねています。

歴代会長(☆)・理事長(※)

	H08	H09	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17
中村正明	☆									
高橋三善		☆								
三橋敬夫			☆	☆	☆	☆				
齋木孝道							☆	☆	☆	☆
水野晴行	※	※	※	※	※	※				
飯野詮芳							※	※	※	※

事務局長(○)・会計(◇)

	H08	H09	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17
水野晴行	○	○								
大澤英男						○	○	○		
石川勝義	◇	◇	○	○	○				○	○
大林清			◇	◇	◇					
坂本作次						◇	◇	◇		
仲野隆一									◇	◇

編集後記

ここに10周年記念誌を纏める事が出来、編集委員一同、ほっとしています。

費用の関係で、印刷を自前でやり、製本だけを印刷所に頼むという作業は思いの外大変でした。編集会議、印刷は休業日返上で行いました。

原稿集めは難航しました。しかし原稿を書かれた方々の方が、数段大変な思いをされたと察しています。

高木祥一先生を始め、多くの方々から、原稿を寄せて頂きました。「中圏連」への温かいメッセージや囲碁に寄せる熱い想いをいただきましたが、外の人より一足先に読ませて頂き、役得した気分です。ご多用の中、ご協力頂いた皆様一人ひとりに深く感謝しています。

ありがとうございました。

本「中圏連」が発足し、もう10年になります。水野、石川両先生は全国に先駆け、未踏の原野を切り拓き、そこに種を蒔きました。その種は原田実先生、潮田氏そして日本棋院、高圏連を始めとする多くの方々から水や養分を注いで頂き、ようやく幼木に育ってきています。

さらなる本連盟の発展のため、今後とも一層のご支援を頂きたいと思います。

この小冊子が新たな船出の糧となることを祈ります。(編集委員長 大林 清)

未来に向かって

—中圏連10年の歩み— (2005.12.3発行)

発行・・・神奈川県中学校囲碁連盟

編集委員・・・石川 勝義、石田 唯之、大林 清

製本・・・イソノ印刷

神奈川県中学校園基連盟ホームページ アドレス

<http://www11.plala.or.jp/tyuuiiren/>

2005. 12. 3 記念誌発行